

令和2年6月

関係各位

「新しい生活様式」における音楽科授業でのリコーダーの扱い 及び日常のリコーダー演奏について(情報提供)

全日本リコーダー教育研究会
会長代行 親 泊 明 美

日頃より全日本リコーダー教育研究会の活動にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、各学校では授業再開に当たり、新型コロナウイルス感染防止のために様々な策を立てていることと思います。5月22日に文部科学省より「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～(2020.5.22 Ver.1)～」(以下「新しい生活様式」という)が発表されました。多くの学校では6月1日より授業再開となり、新しい生活様式の区分を意識してのスタートと存じます。しかしながら、音楽における「室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」は「特にリスクが高い活動」とされ、「実施について慎重に検討」することとされております。そのため各学校では、音楽科授業の実施に当たって、授業に欠かせないリコーダーをはじめとする各種管楽器の使い方が、大きな課題の一つとなっております。

本会はリコーダー教育を研究する国内唯一の全国組織として、その目的を「リコーダーに関する演奏・指導法などの研究を推進すると同時にその普及発展をはかり、我が国の音楽文化の向上に寄与することを目的とする。(会則第3条)」と掲げております。そこで、リコーダーを安全に授業で活用するため、情報を収集し、本会会員及び全国の音楽科教員の皆様、そしてリコーダーを愛好するすべての皆様に提供することとしました。

①リコーダー製造メーカーへの資料提供依頼

国内でリコーダーを製造するメーカー4社に問い合わせたところ、トヤマ楽器製造株式会社(以下「トヤマ楽器」という)、及び株式会社ヤマハミュージックジャパン(以下「YMJ」という)が、飛沫について研究するとのことでしたので、両社に資料提供を求めました。

5月21日、トヤマ楽器から、「リコーダー演奏時の微粒子可視化評価撮影結果」について報告を受けました。様々な条件で演奏実験を行っていますので、リコーダー演奏時における飛沫の特徴（演奏時の飛沫は、ほぼ確認できなかつた。ただし、口とリコーダーに隙間が生じると、飛沫が飛ぶ場合がある。）がわかりました。なお、実験は無風状態で行われたものであることを申し添えます。

また、YMJからもリコーダー等の飛沫実験を行っているとの中間報告を受けました。最新の報告結果については、追って本会ホームページ内でもご紹介する予定です。

②リコーダー演奏家への見解依頼

元横浜国立大学、元東京藝術大学講師で、本会相談役、並びに全日本リコーダーコンテスト前審査委員長である、リコーダー奏者 吉澤 実先生に意見を求めました。

それを基に「感染防止のためのリコーダーの扱い方及び演奏の仕方(案)」を作成しました。

新しい生活様式で慣れない学校生活を送る今、不安感いっぱいな子供たちを救える教科の一つが音楽科です。歌うことや楽器を演奏することで、人と人がつながり、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することができ、安心感を生みます。インターネット上で盛んに発表されたリモート形式での音楽活動がそのよい例です。

皆様におかれましては本資料を参考にいただき、「マスク着用」が標準という現状を受け止めつつ、歌唱活動や楽器の扱い方に留意し、「心も体も解放」され、「人と人がつながる」音楽授業が実践されることを願ってやみません。

また、リコーダーは今や生涯教育としてのツールとなり、多くの一般愛好家によって奏でられております。皆様にとっても、お役に立つことができれば幸いです。